Kobe University Repository : Kernel

PDF issue: 2025-07-02

神戸大学附属図書館職員のためのラテン語入門120分

瀧澤, 栄治

(Issue Date)
2010-08

(Resource Type)
learning object

(Version)
Version of Record

(URL)
https://hdl.handle.net/20.500.14094/90001199

神戸大学附属図書館職員のための

ラテン語入門120分

神戸大学附属図書館長

瀧 澤　栄 治

2010 年 6 月 2 日・9 日・30 日

表紙　ポンペイの「パン屋の夫婦」

右はパン屋のテレンティウス・ネオでパピルスの巻物を、
左は彼の妻で筆と書板を持っている。

「書板」

木の板にロウを塗ったもの。金属製の尖筆 stilus で書く。
板は tabula と呼ばれ、複数枚（一般的には３枚）綴じたものは tabulae（複数形）または codex と呼ばれた。パピルスが巻物であるのに対して、codex は現在の「本」と同じ冊子体の構造をとる（かなり分厚いが）。

神戸大学附属図書館職員のための

ラテン語入門120分

第一部　辞書が引けるまでの初級編

第１話　バスはラテン語？　ローマ時代に？
第２話　ラテン語を読むなら日本人が一番？
第３話　ラテン語はギリシャ語に比べれば易しい！！！
◇文法の基礎知識
◇辞書を引いてみましょう。

〔休憩：ローマ時代の筆記具と契約文書 広告〕

第二部　今や図書館職員としての実力が試される

ラテン語で書かれた書物のタイトルページを読んで見ましょう。

教材１
Hugonis Donelli OPERA OMNIA, Tomus primus, Lucae, 1672.
教材２
Iacobi Cuiacii OPERA OMNIA in decem tomos distributa,
Lutetiæ Parisiorum, 1658

変化表
さらに上を目指す方のために

第一部　辞書が引けるまでの初級編

第１話　バスはラテン語？　ローマ時代に？

テーマ　ラテン語は身近な存在である
目　標　ラテン語に慣れること
課　題　ラテン語起源の英語を辞書で調べる

【問題】以下の英語を英和辞典で引いて、語源を調べて下さい。

① bus, omnibus　② public, private　③ absent, present, interest　④ calendar, October, January　⑤ minor, major　⑥ fact, data　⑦ e.g., Q.E.D.

【解答】

① bus：バス、乗合自動車▲ omnibus の短縮形
omnibus：バス、著作集▲ L: for all（dat. pl. of *omnis*）

② public：公の▲ L .*public (us)*; private：私の▲ L.*privat (us)*

③ absent：不在の▲ L.absent-（s. of *absens*, prp. of *abesse* to be away）
present：現在の▲ L.praesent-（s. of *praesens*, prp. of *praeesse* to be before）; interest：興味、利害▲ L.*inter+esse* to be between

④ calendar：暦（kalendar）▲ L. *Calend (ae)*
October：10 月　▲ L.october（第８番目の月）
January：１月　▲ L.*Januari (us)=Janus+arius*（ヤヌス）

⑤ minor：小さい方の；major：大きい方の

⑥ fact：事実　▲ L.*fact (um)* something done, n. use of neut. of *factus* done ptp. of *facere* to do；data：データ　▲ datum の複数形

⑦ e.g.：例えば　▲ *exempli gratia*；Q.E.D.：証明終わり▲ *quod erat demonstrandum*（which was to be demonstrated）

〔補足説明〕*dat.* dative（与格）；*n.* noun（名詞）；*neut.* neuter（中性形）； *pl.* plural（複数形）；*prp.* present participle（現在分詞）；*ptp.* past participle（過去分詞）；*s.* stem（語幹）

〔ラテン語の説明〕

① bus, omnibus →第３話◇辞書を引いてみましょう

② publicus, privatus; -a -um 形容詞　**−usで終わる形容詞**で男性と中性が名詞の第２変化と同形、女性が第１変化名詞と同形　**これは名詞、形容詞の変化の最も基本的なものです。最低限これだけは覚えて下さい。**

③ absens, praesens, ;動詞 ab+esse, prae+esse の現在分詞　esse は英語の be にあたり、**不規則動詞sum（ある、いる）**の不定法現在形です。ラテン語の動詞は通常一人称・単数・直説法・現在（私は～する）の形で表記され、辞書の見出しもこの形をとります（辞書によっては不定形）。sum の前に ab（離れている）、prae（面前に）が結びついて absum（離れている）, praesum（目の前にいる）。**現在（能動）分詞**は名詞化（そこにいる人）、形容詞化（そこにいるところの～）され、また英語の分詞構文的な働きをする。

④ Calendae/Kalendae, -arum *f. pl.*;朔日

⑤ minor, maior: 形容詞 parvus（小さい）、magnus（大きい）の比較級
形容詞の比較級、最上級は語幹に-ior（*mf*）, -ius（*n*）、-issimus, -issima, -issimum をつけて作られます。しかしこの場合は**不規則的比較形**（parvus-minor-minimus; magnus-maior-maximus）。

⑥ factus:動詞 facio, ere, feci, factum（行う）の**完了（受動）分詞**　中性名詞化されて「行われたこと」; datum も同様に動詞 do, dare, dedi, datum（与える）から。

⑦ exempli gratia; exemplum, -i *n*:中性名詞「例」の属格；gratia -ae:女性名詞「恩恵」、ここでは gratia（**奪格**）＋属格名詞という用法で、「～のために」。従って「例として」。quod erat demonstrandum: quod は**関係代名詞** qui, quae, quod の quod（中性・単数・主格）、ここでの先行詞は「以上のこと」。erat は動詞 sum の直説法未完了過去・３・単。demonstrandum は動詞 demonstro「証明する」の**動形容詞**、受動の義務「～されるべき」を意味し、sum とともに述語として用いられている。「以上が証明されなければならなかったこと」

第２話　ラテン語を読むなら日本人が一番？

テーマ　ラテン語を音読することは簡単である
目　標　意味は分からなくても読むことができること
課　題　文字とその音を学ぶ

ポイント１　Ｗはない。ＶはＵである。Ｊはないが、ある。
ポイント２　Ｃは[k]の音である。Ｑは qu-の形を取って[kw]の音。
ポイント３　基本はローマ字読みである。
ポイント４　長短とアクセントがある（詩を読むときは重要）。

【問題】以下のラテン語を読んで下さい。

① S.P.Q.R.=SENATVS POPVLVSQVE ROMANVS

② Iustitia est constans et perpetua voluntas ius suum cuique tribuens. Iuris prudentia est divinarum atque humanarum rerum notitia, iusti atque iniusti scientia.

【解答】

①セ**ナ**ートゥス・ポプ**ル**ス・クェ・ロー**マ**ーヌス（Senatus Populusque Romanus）「元老院とローマ人民」

②ユース**ティ**ティア・エスト・**コ**ーンスターンス・エト・ペル**ペ**トゥア・ウォ**ルン**タース・ユース・スウム・クイークェ・**トゥリ**ブエーンス

ユーリス・プルー**デン**ティア・エスト・ディーウィー**ナー**ルム・アトクェ・フーマー**ナ**ールム・レールム・ノー**ティ**ティア・ユースティー・アトクェ・イン**ユー**スティー・スキ**エン**ティア

「正義とは各人にその権利を配分するところの恒常不断の意志である」。
「法学とは神事および人事の知識にして、正・不正の識別である」。

〔補足説明１〕Ｉと Ｖ は母音、半母音として用いられる。例）IVS（ivs, ius, jus）、VOLVNTAS（voluntas, uoluntas）

〔補足説明２〕アクセントは後ろから２番目か３番目の音節に置かれる（２番目が長いときは２番目、短いときは３番目）。

〔ラテン語の解説〕

iustitia, ae *f*:名詞「正義」の主格

est: 動詞 sum の３人称・単数・現在

constans, -antis:形容詞（現在分詞）「不変の」男性女性・単数・主格・voluntas を修飾（-ans/-antis/-anti/-antem（*n*:-ans） /-ante: -antes（*n*:/-antia）/-antium/-antibus/-antes（*n*:-antia）/-antibus）

et:接続詞「そして」

perpetua:形容詞 perpetus「不断の」女性・単数・主格（voluntas を修飾）

voluntas, -atis *f*:名詞「意志」の主格（第３変化 voluntas/-atis/-ati/-atem/-ate: -ates/-atum/-atibus/-atis（-ates）/-atibus）

ius, iuris n:名詞「法・権利」の対格（第３変化名詞 ius/iuris/iuri/ius/iure: iura/iurum/iuribus/iura/iuribus）

suum: suus, -a -um 所有代名詞「自己の」 ius に係る

cuique: 不定代名詞 quisque「各人」の与格

tribuens:動詞 tribuo, ere「分配する」の現在分詞（目的語を伴って voluntas を修飾）

prudentia, -ae f:名詞「思慮」iurisprudentia → jurisprudence「法学」

divinarum:形容詞 divinus -a, -um「神の」女性・複数・属格（rerum を修飾）

atque:接続詞「および」

humanarum:形容詞「人の」

rerum:名詞 res, rei *f*「物」の複数・属格（第５変化名詞:res/rei/rei/rem/re: res/rerum/rebus/res/rebus）

notitia, -ae *f*:名詞「認識」

iusti:名詞 iustum, -i *n*「正義」

iniusti:「不正」

scientia, -ae *f*:名詞「知識・学」

第３話　ラテン語はギリシャ語に比べれば易しい！！！

テーマ　ラテン語の辞書を引くことはそう難しくはない
目　標　辞書を引くことができるようになること
課　題　基礎文法を学習し、実際に辞書を引いてみる

最重要ポイント　原則として**語の頭は変化しない！**

◇文法の基礎知識

①名詞は固有の性を持ち、数と格に従って変化する。

・性は男性、女性および中性の三つ　・数は単数と複数

・主な格は主格（～は)、属格（～の)、与格（～に)、対格（～を)、奪格（～によって）

・変化には第１変化、第２変化等々の基本形がある

②形容詞も変化する。

③動詞は相、法、人称、数および時制に従って変化する。

・相は能動相と受動相　・法は直説法、接続法、命令法

・人称は１人称、２人称、３人称　・数は単数、複数

・時制は現在、未来、未完了過去、完了、過去完了、未来完了

・変化の基本形として４種類があり、その他に不規則に変化する重要な動詞（sum〔ある〕, eo, ire, ii, itum〔行く〕,fero, ferre, tuli, latum〔運ぶ〕等）がある。

【問題】以上の変化をすべて正確に覚えるための最も適したやり方は、訳の分からない子供のうちに無理矢理暗記させることである。そのような教育を受けることなく成人してしまった人はどうしたらよいか？

【解答】幸いなことに語の頭は変化しないので、当たりをつけることができる。辞書のポイントとなる表記をおさえ、変化表で調べることによって、なんとかなる。

◇辞書を引いてみましょう。

ポイント　語尾変化のパターンに注目

【問題】 omnibus を辞書で引いて意味を調べて下さい。

【解答】

omnibus（オムニブス）　すでに語源説明のところで(dat. pl. of *omnis*)とありました（第１話解答①)。つまり、ラテン語 omnis の複数・与格であると。そこで *omnis* を引いてみると。

omnis -e　この形容詞は単数・主格の男性および女性名詞を形容するときは omnis と、中性名詞を形容するときは omne であることを示しています。これでこの形容詞の変化パターンが分かります。

	男性・女性		中　性	
	単数	複数	単数	複数
主	omn-is	omn-es	omn-e	omn-ia
属	omn-is	omn-ium	omn-is	omn-ium
与	omn-i	omn-ibus	omn-i	omn-ibus
対	omn-em	omn-is	omn-e	omn-ia
奪	omn-i	omn-ibus	omn-i	omn-ibus

omnibus は性を問わず複数の与格か奪格であることが分かります。ここでは複数名詞「すべての人々」として用いられ、与格として「～のために」を意味します。→ for　all（英語の前置詞 for は与格への変化によって言葉の中に含まれています)

publicus -a -um　これは男性が publicus、女性が publica、中性が publicum

◇名詞の場合のポイント　性は何か、その属格形は何かが重要です。

例）iustitia -ae, *f.*（属格は iustitiae、女性形）　これで第１変化の名詞であることが分かります。

◇動詞の場合のポイント　最初に出てくる変化の基本形

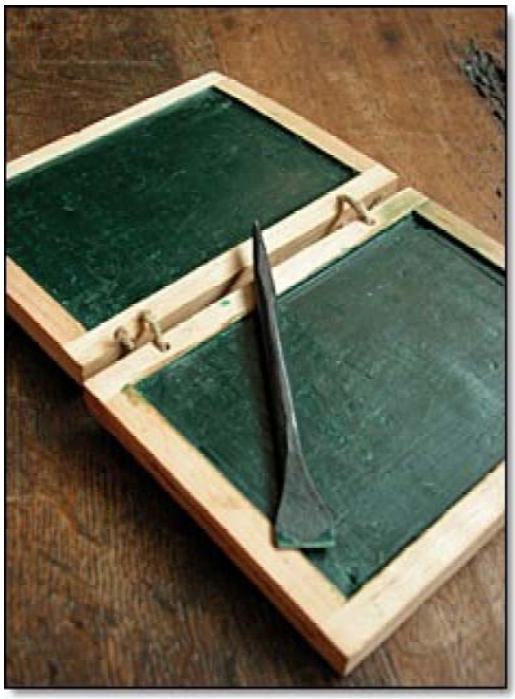
例）amo -are -avi -atum　これを見ることによって規則動詞第１変化であることが分かります。

【問題】以下のラテン語を辞書で調べて下さい。

Libros legentes multa discimus.

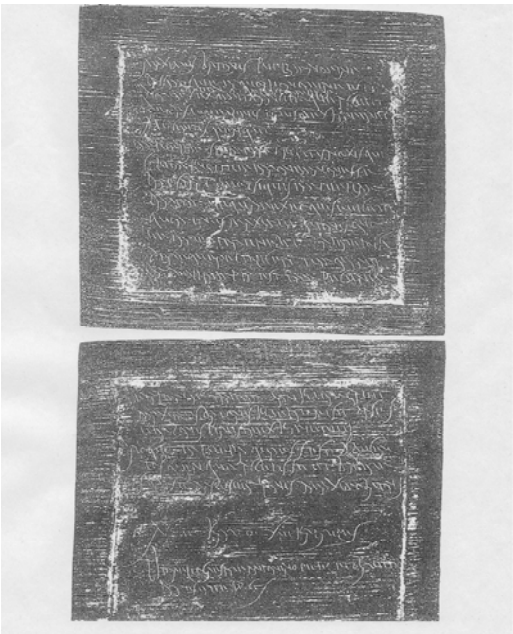
〔休　憩〕

ローマ時代の
筆記具と契約文書



書板（tabulae, codex）を復元したもの

今日残っているものの大きさは 14 × 12 センチから 27.5 × 23.5 センチ
素材の性質上限界があり、十枚を超えて重ねた例はない。文字は通例辺の長い方に沿って平行に書かれる。

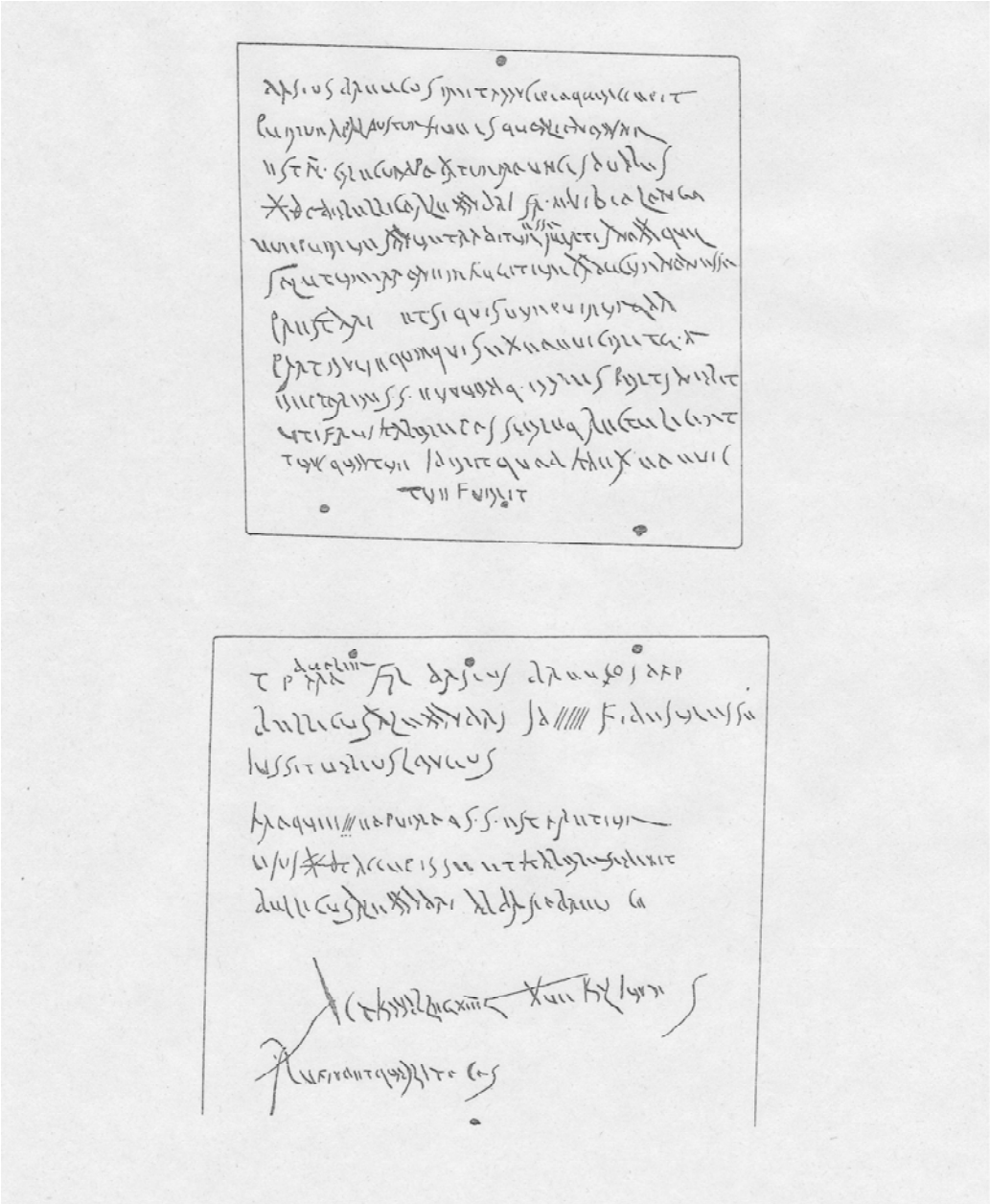


◇奴隷の契約証書（後 139 年）
〔1855 年トランシルヴァニア地方にて発見　三枚組蝋引板（16 × 14.3 ㎝）〕
1786 年から 1855 年にわたり、Verespatak 村（ローマ支配の時代はダキアの Albunus Maior、現在はルーマニアの Rosia Montana）の近くにあるトランシルバニア金鉱山で発見されたロウ引き板の一つ。全部で 25 発見され、紀元後 131 年から 167 年までの時代に書かれたものである。

（図版出典：Corpus inscriptionum Latinarum 3, 936）

同じく発見された契約書（紀元後 142 年）の文字の写し

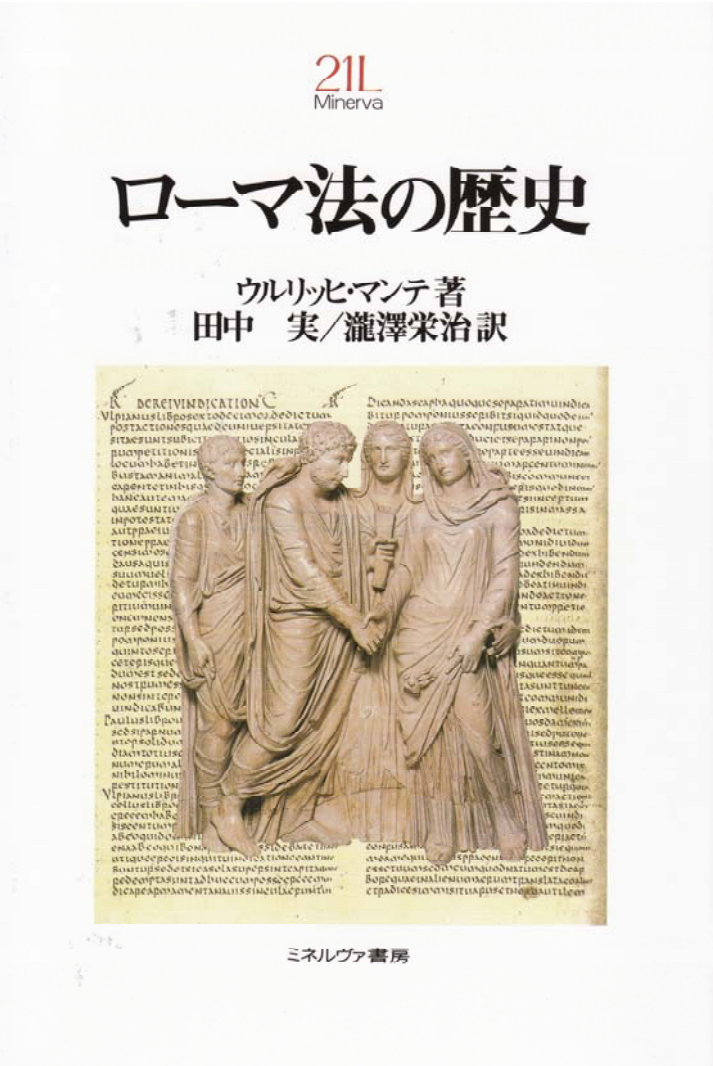
初めて見るときは文字に見えないが、慣れてくると読めるようになる（はず）。**皆さんはこれを読むわけではありません。これに比べたら第 2 部の教材は楽な方です。**



（図版出典：Corpus inscriptionum Latinarum 3, 940）

〔広告〕

ローマ法の歴史について興味をもった方のためにはこんな本があります。



MINERVA 21 世紀ライブラリー 87
ローマ法の歴史　2008 年　ミネルヴァ書房
定価（本体 2,500 円＋税）

表紙のレリーフの解説

花嫁の引き渡し

ローマの結婚式は通常鳥占いで吉凶を占うことから始まる。その後、婚姻または嫁資約束が十人の証人の前で結ばれ、花婿と花嫁が婚姻の意思を表示する。次に花嫁が引き渡され、証人が歓呼して祝賀を述べ、花嫁の父の家で宴会が催される。夜になると、新婦はお祝いの行列の中、新居へと導かれ、抱き上げられて家の敷居をまたぎ、新郎によって火と水の共同体のメンバーに迎え入れられる。宴は結婚式の翌日の二次会（レポーティア *repotia*）で終了するが、この宴会で妻は既婚婦人として親戚を迎え、はじめて家の神々に犠牲を捧げる。

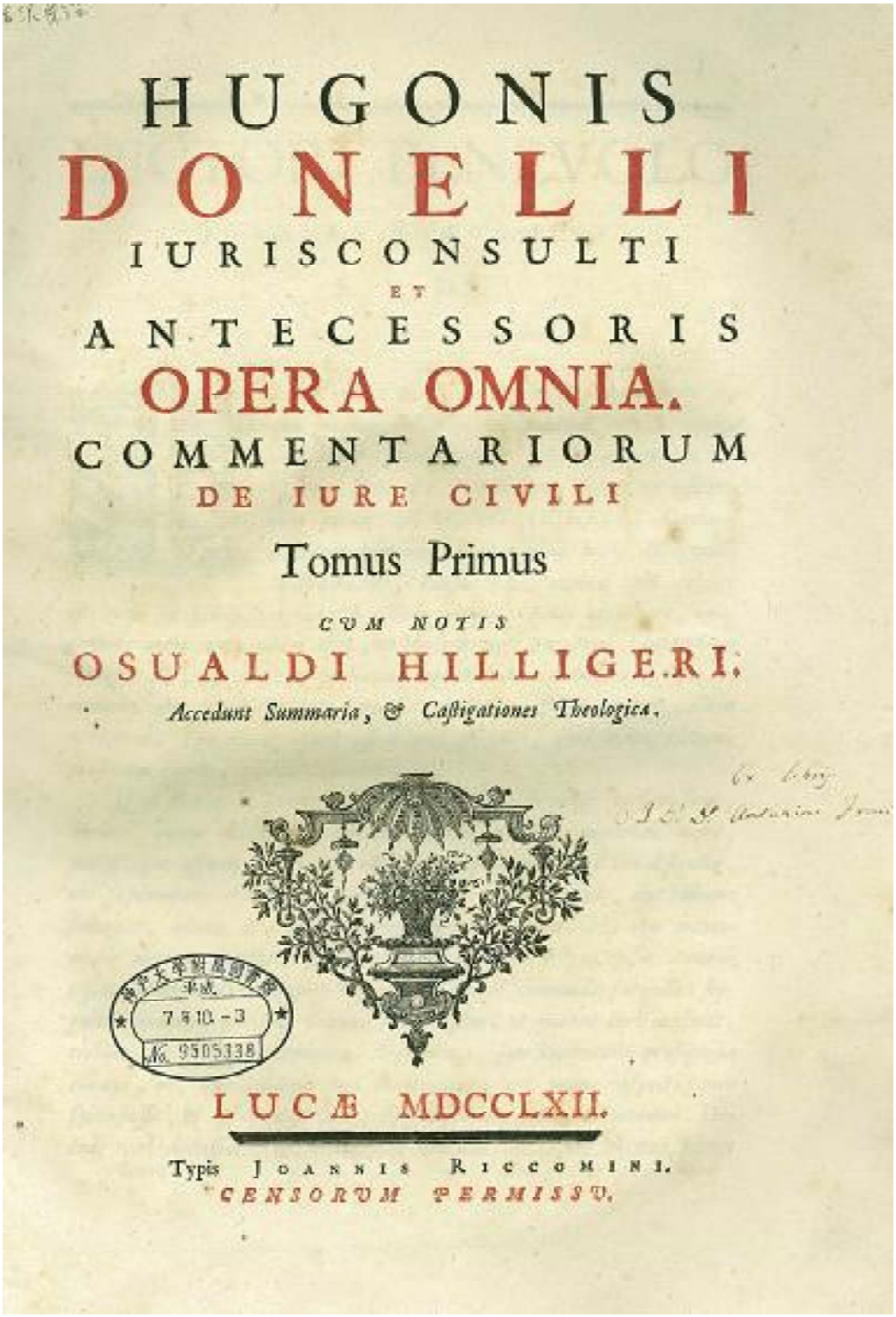
大英博物館の石棺にある、非常に精巧に細工されたこの上品なレリーフは、2世紀中頃における花嫁の引き渡しを描いている。婚姻の意思を表明した後に、新郎新婦は花嫁の付き添い女性（プローヌバ *pronuba*）によって集められる。プローヌバは初婚の既婚女性で、婚姻が末永く続くことの吉兆と見なされた。新郎新婦は互いに右手を合わせ、その際にプローヌバが両手を二人の肩に置いて抱きかかえる。新婦は花嫁のヴェール（フランメウム *flammeum*）を被る。フランメウムは燃えるような赤、オレンジまたは黄色のヴェールで、ユピテル神官、したがって格上の神官の妻（フラーミニカ・ディアーリス *flaminica Dialis*）の衣装をモデルとするものである。ユピテル神官の妻は燃えるような赤の衣服を着ており、生贄の儀式の際には頭をヴェールで覆った。彼女の婚姻は離婚不可能であり、生活は極めて厳格なものであってので、この花嫁のヴェールは慎み深く忠実であることを象徴するものであった。「結婚する」（ヌーベレ *nubere*）という動詞が女性の側からの行為、つまり元来の意味としての「覆う」を意味したことは偶然ではない。夫はその左手に婚姻または嫁資の契約書を持ち、この契約書は確かになお「婚姻のタブラエ」（*tabulae nuptiales*）、「嫁資のタブラエ」（*tabulae dotales*）と呼ばれたが、しかし「右手の結び」（デクストゥラールム・ユンクティオー *dextrarum iunctio*）を描く絵では、通常、巻物として現れる。新郎の横にいる男性は、このようなシーンではよくあるように、花嫁を連れてくる人（パラニュンフス *paranymphus*〔新郎の付添人〕）であろう。「右手の結び」がまさに棺のレリーフにしばしば描かれていることは、最終的な別れが幸福な日々への追憶を強烈に呼び起こすことから説明することができるであろう。

（Behrends/Knütel/Kupisch/Seiler, Corpus Iuris Civilis, Text und Übersetzung: IV 2005, S. VIII）

第二部　今や図書館職員としての実力が試される

ラテン語で書かれたタイトルページを読んでみましょう。

教材 1



HUGONIS
DONELLI
IURISCONSULTI
ET
ANTECESSORIS
OPERA OMNIA.
COMMENTARIORUM
DE IURE CIVILI
Tomus Primus
CUM NOTIS
OSUALDI HILLIGERI.
Accedunt Summaria, & Castigationes Theologica.

LUCÆ MDCCLXII.

Typis JOANNIS RICCOMINI.
CENSORUM PERMISSU.

HUGONIS

DONELLI

IURISCONSULTI

et

ANTECESSORIS

OPERA　OMNIA.

COMMENTARIORUM

DE IURE CIVILI

Tomus Primus

Cum Notis

OSUALDI　HILLIGERI.

Accedunt Summaria, & Castigationes Theologicæ.

LUCÆ　MDCCLXII

Typis Joannis Riccomini

Censorum Permissu.

著者名　Hugo Donellus の

（フランス名 Hugues Doneau）

＊著者名の属格

Iurisconsultus et Antecessor

法律家にして法学教授の

＊著者の肩書きで属格

書　名　Opera omnia　全集

commentarii（註解）の複・属

de iure civili ローマ法に関する

＊収録作品

巻　数　Tomus Primus

第 1 巻

注　記　cum notis 注付き

Oswald Hilliger の

＊ラテン語にした人名で属格

accedunt（動詞 accedo）加わる

summaria　要約、一覧

castigatio theologica 神学上の修正

発行地と発行年

Luca（ルーカ）の地格

＊イタリアの都市 Lucca

1000+500+100+100+50+10+2

=1762 年

出版者名 Joannes Riccomini

typis → typus の複数・奪格

censor（検閲官）permissus（許可）

〔解説〕

◇著者名

著者は人文主義法学を代表するフランスの偉大な法学者 Hugues Doneau（ユーグ・ドノー、1527-1591）である。書物の人名としてはそのラテン語名 Hugo　Donellus（フーゴー・ドネッルス）が用いられている。**著者名はその属格形で記される**。

◇書名

OPERA OMNIA（全集）

opera: opus -eris, *n.*（中性名詞）作品　複数・主格か対格

omnia: omnis -e　この形容詞は既出　中性・複数・主格か対格

opera omnia 全ての作品

COMMENTARIORUM DE IURE CIVILI（『ローマ法註解』）

commentariorum: commentarius の複数・属格

de:（～について）前置詞（奪格支配）; **iure**: ius, -ris（法）の単数・奪格; **civilis**, -e（市民の）の単数・与格か奪格　ius civile（市民法＝ローマ法）

◇巻数

TOMUS PRIMUS（第一冊）

tomus: -i, *m*　（分）冊、巻; **primus**: -a, -um　第一の

◇注記

CUM NOTIS OSUALDI HILIGERI（O.Hiliger の注付き）

cum:（～とともに with）前置詞（奪格支配）; **notis**: nota -ae, *f.*

ACCEDUNT SUMMARIA, & CASTIGATIONES THEOLOGICAE

（要約および神学上の修正が付け加わる）

accedunt: accedo -cedere -cessi -cessum（ad/cedo）直・現・３・複

◇発行地と発行年

地名はラテン語表記。場所を示すときは**地格**が用いられる。第１，第２変化の単数は属格と、第３と複数は奪格と同形。

MDCCLXII ［anno Domini］millesimo septingentesimo sexagesimo secundo

◇出版者名

Typis Joannes Riccomini（J.リッコミーニの印刷により）

教材２

IACOBI CVIACII

IC. PRÆSTANTISSIMI

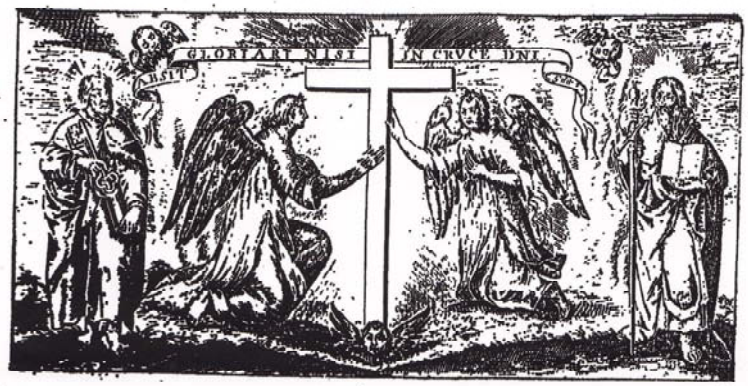
OPERA OMNIA

IN DECEM TOMOS DISTRIBVTA.

QVIBVS CONTINENTVR TAM PRIORA, ſiue quæ ipſe ſuperſtes edi curauit; quam poſteriora, ſiue quæ poſt obitum eius edita ſunt, vel nunc primum prodeunt.

EDITIO NOVA EMENDATIOR ET AVCTIOR CÆTERIS OMNIBVS QVÆ ANTE PRODIERVNT,

Opera & cura CAROLI ANNIBALIS FABROTI IC.



LVTETIÆ PARISIORVM,

Impenſis Societatis Typographicæ Librorum Officij Eccleſiaſtici, iuſſu Regis conſtitutæ.

M. D C. I. V I I I.

CVM PRIVILEGIO REGIS.

神戸大学附属図書館
平成
9年1.27
No. 9612980

IACOBI CVIACII　Iacobi Cuiacii: Jacobi Cujacii

IC. PRÆSTANTISSIMI　Iurisconsulti praestantissimi

Opera omnia in decem tomos distributa, quibus continentur tam priora, sive quae ipse superstes edi curavit; quam posteriora, sive quae post obitum eius edita sunt, vel nunc primum prodeunt.

Editio nova emendatior et auctior caeteris omnibus quae ante prodierunt,

Opera et cura Caroli Annibalis Fabtoti IC.

Lutetiae Parisiorum, Impensis Societatis typographicae librorum oficii ecclesiastici, iussu Regis constitutae.

M. D C. L. VIII.　cum privilegio Regis.

◇ NACSIS Webcat:詳細表示から抜粋

Iacobi Cviacii ic. præstantissimi Opera omnia in decem tomos distributa: quibus continentur tam priora, siue quæipse superstes edi curauit, quam posteriora, siue quæ post obitum eius edita sunt, vel nunc primum prodeunt. --Ed. nova emendatior et auctior / opera & cura Caroli Annibalis Fabroti.

注記: Reprint. Originally published: Lutetiæ Parisiorum: impensis Societaitis typographicæ librorum officij ecclesiastici, 1658

著者標目: Cujas, Jacques, 1522-1590; Fabrot, Charles Annibal, 1580-1659

〔解説〕

①著者名 *Iacobi Cviacii ic. præstantissimi*

Jacobus Cujacius iurisconsultus praestantissimus の属格

ic.:略語；**praestantissimus**: -issimus という語尾に注目→最上級

「傑出した法律家であるヤコブス クヤキウスの」

②書名 *Opera omnia in decem tomos distributa*

distributa は動詞 distribuo（英 distribute），-uere -ui -utum の完了分詞で、受動の意味の形容詞として使われている。動詞として distribuere A（対格）in B（対格）「A を B へと分ける」という使い方ができる。ここでは A を修飾して「B へと分けられたところの A」。名詞 opera は中性複数主格なので、distributa と変化している。

in:前置詞、＋対格で方向（～へと）、＋奪格で位置（～において）ドイツ語の４格、３格支配と同じ；**decem**:Ｘ=10；**tomos** は複数・対格

「10冊（巻）へと分けられている全作品集」

③内容説明 *quibus continentur tam priora, siue quæ ipse superstes edi curauit,* **quibus**:語尾-ibus に注目、関係代名詞（qui, quae, quod）で opera を受ける；**continentur**:語尾-ntur に注目、動詞 contineo, ere, tinui, tentum の直・現・受動・３・複で「～がそこに（quibus）含まれる」；**tam** は **quam** とセットで tam A quam B「A も B も」；**priora, posteriora**: 語尾-ior+a に注目、比較級で語尾が-a（中性複数主格・対格）；**sive**:あるいはまた；**quae** :関係代名詞；**ipse**:自身が；**superstes**:生存中の；**edi**:動詞 edo -dere -didi -ditum（英語の edit）の不定法・現在・受動相「出版される」；**curavit**: curo -are の直・完了・３・単数「世話する」、この動詞に「対格（不定法の動詞の主語～が）＋不定法（～する）」が付いて「～が～することの世話をする」。

「そこ〔この全集〕には、前のもの〔作品〕、つまり〔著者〕自身が存命中にそれらを出版する仕事をしたものも含まれているし」。

④続き *quam posteriora, siue quæ post obitum eius edita sunt, vel nunc primum prodeunt.*

post obitum eius: after his death; **quae ... edita sunt**:それらは出版された

；**nunc primum**:今や最初に；**prodeunt**: prodeo -ire -ii -itum「世に出る」
「また後のもの〔作品〕、つまり彼〔著者〕の死後に出版されたものや、今初めて公刊されるものも〔含まれている〕」。

⑤続き *Ed. nova emendatior et auctior* caeteris omnibus quae ante prodierunt, */ opera & cura Caroli Annibalis Fabroti.*

Ed.=editio; novus, -a, -um 新しい; emendatior: emendatus の比較級; auctior: auctus の比較級; caeteris: ceterus, -a,-um その他の複数・奪格（比較の奪格）; ante:以前に; prodierunt: prodeo の複数・３・完了；opera, ae, *f*.:労：cura, ae, *f*.世話

「以前に公刊された他のどれよりもより改訂されより充実した新版／Charles Annibal Fabrot **の** opera **と** cura **により」**

⑥出版地 *Lutetiæ Parisiorum*

Lutetiæ Parisiorum: パリにおいて（パリのラテン語名の地格）

⑦出版社 *Societaitis typographicæ librorum officij ecclesiastici*

impensis: impensa, -ae, *f*.　複数・奪格「～の費用により」

Societatis typographicæ librorum officij ecclesiastici

societas -atis, f. =association; typographica=typographical

librorum: liber, -bri, *m*. 本：officium ecclesiasticum

=typographical association of books of ecclesiastical office

⑧続き *iussu Regis constitutae.*

iussu: iussus, us, *m*.:「命令」の奪格; **regis**: rex, regis, *m*.「国王」の属格

constitutae: constituo, -ere, -stitui, stitutum「立てる」の完了分詞、語尾の-ae に注意、societatis を形容（「国王の命により設立された協会」）

⑨出版年 M. D C. L. VIII.（[anno Domini] millesimo sescentesimo quinquagesimo octavo）

⑩ cum privilegio Regis.

cum: 前置詞（奪格支配）；**privilegio**: privilegium「特別の許可」の奪格

「国王の許可を得て」

〔変化表〕

◇形容詞　第１第２変化形容詞 -us, -a, -um

	男性	女性	中性
単主格	bon-us	bon-a	bon-um
属格	bon-i	bon-ae	bon-i
与格	bon-o	bon-ae	bon-o
対格	bon-um	bon-am	bon-um
奪格	bon-o	bon-a	bon-o
複主格	bon-i	bon-ae	bon-a
属格	bon-orum	bon-arum	bon-orum
与格	bon-is	bon-is	bon-is
対格	bon-os	bon-as	bon-a
奪格	bon-is	bon-is	bon-is

◇関係代名詞 qui, quae, quod

	男性	女性	中性
単主格	qui	quae	quod
属格	cuius	cuius	cuius
与格	cui	cui	cui
対格	quem	quam	quod
奪格	quo	qua	quo
複主格	qui	quae	quae
属格	quorum	quarum	quorum
与格	quibus	quibus	quibus
対格	quos	quas	quae
奪格	quibus	quibus	quibus

◇動詞

第１変化　amo, amare, amavi, amatum
第２変化　moneo, monere, monui, monitum
第３変化　rego, regere, rexi, rectum
第３変化 b　capio, capere, cepi, captum
第４変化　audio, audire, audivi, auditum

直説法能動態・現在

	1	2	3	3 b	4
単 1	amo	moneo	rego	capio	audio
2	amas	mones	regis	capis	audis
3	amat	monet	regit	capit	audit
複 1	amamus	monemus	regimus	capimus	audimus
2	amatis	monetis	regitis	capitis	auditis
3	amant	monent	regunt	capiunt	audiunt

直説法受動態・現在

	1	2	3	3 b	4
単 1	amor	moneor	regor	capior	audior
2	amari	moneris	regeris	caperis	audiris
3	amatur	monetur	regitur	capitur	auditur
複 1	amamur	monemur	regimur	capimur	audimur
2	amamini	monemini	regimini	capimini	audimini
3	amantur	monentur	reguntur	capiuntur	audiuntur

直説法能動態・完了

	1	2	3	3 b	4
単 1	amavi	monui	rexi	cepi	audivi
2	amavisti	monuisti	rexisti	cepisti	audivisti
3	amavit	monuit	rexit	cepit	audivit
複 1	amavimus	monuimus	reximus	cepimus	audivimus
2	amavistis	monuistis	rexistis	cepistis	audivistis
3	amaverunt	monuerunt	rexerunt	ceperunt	audiverunt

さらに上を目指す方のためにはこんな素晴らしいものがあります。

『タイトルページを読む楽しみ――図書館ラテン語入門』
編集　九州大学附属図書館ラテン語古刊本書誌作成研修会
発行　2001年3月31日　九州大学附属図書館

教材３

ΤΩΝ

ΒΑΣΙΛΙΚΩΝ

ΒΙΒΛΙΑ Ξ.

BASILIKON

LIBRI LX.

IN VII. TOMOS DIVISI.

CAROLVS ANNIBAL FABROTVS *Antecessorum Aquisextiensium Decanus Latinè vertit, & Græcè edidit*

EX BIBLIOTHECA REGIS CHRISTIANISSIMI.

PARISIIS.

Sumptibus { SEBASTIANI CRAMOISY Architypographi Regis & Reginæ Regentis, ET GABRIELIS CRAMOISY. } viâ Iacobæâ, sub Ciconiis.

M. DC. XLVII.

CVM PRIVILEGIO REGIS.

ΤΩΝ

ΒΑΣΙΛΙΚΩΝ

ΒΙΒΛΙΑ Ξ΄.

ΒΑΣΙΛΙΚΩΝ

LIBLI LX

IN VII. TOMOS DIVISI.

CAROLVS ANNIBAL FABROTVS Antecessorum Aquisextiensium

Decanus Latine vertit, & Graece edidit

EX BIBLIOTHECA REGIS CHRISTIANISSIMI.

HONORA PATREM TVVM ET MATREM TVAM,

VT SIS LONGAEVUS SVPER TERRAM.

PARISIIS.

Sumptibus

SEBASTIANI CRAMOISY Architypographi Regis

& Reginae Regentis,

ET

GABRIELIS CRAMOISY.

via Iacobaea, sub Ciconiis.

M. DC. XLVII.

CVM PRIVILEGIO REGIS.

【解説】

① ΤΩΝ ΒΑΣΙΛΙΚΩΝ ΒΙΒΛΙΑ　Ξ.

των：定冠詞、複数・属格　βασιλικων：中性・複数・属格

τα　βασιλικα（複数）皇帝法（一般に『バシリカ法典』と訳されています）

βιβλια：βιβλιον το 書物、巻物→「巻」中性・複数・主格

Ξ　ξ ：数詞　60　εξηκοντα

バシリカ法典 60 巻

② ΒΑΣΙΛΙΚΩΝ LIBLI LX

libri：liber, -bri　→ 21 頁⑦　男性・複数・主格

LX sexaginta=60　バシリカ法典 60 巻

③ IN VII. TOMOS DIVISI.

in septem tomos divisi　→ 20 頁③　in decem tomos distributa

divisi：divido -ere -visi -visum　動詞「分ける」の完了分詞

libri（男性・複数・主格）を修飾し、それに合わせて変化

7 巻に分けられている〔60 巻〕

④ CAROLVS ANNIBAL FABROTVS

Carolus Annibal Fabrotus, Charle Annibal Fabrot

シャルル・アニバル・ファブロ（1580–1659）

⑤ Antecessorum Aquisextiensium Decanus Latine vertit, & Graece edidit

Antecessorum：Antecessor の複数・属格　教授→ 16 頁「著者名」

Aquisextiensium　Aqui-sextiensis「Aquae Sextiae の（人の）」複数・属格

Aquae Sextiae=Aix-en-Provence（Fabrot の生誕地であり、ここの大学の教授となる）

Decanus：Dean　「学部長」

Latine, Graece：ラテン語で、ギリシャ語で

vertit: verto, -ere -i versum　動詞「翻訳する」３・単数・完了

edidit;→ 20 頁③　動詞「出版する」３・単数・完了

⑥ EX BIBLIOTHECA REGIS CHRISTIANISSIMI.

ex: 奪格支配の前置詞　bibliotheca -ae *f.* 「蔵書、図書館」

最もキリスト教の信仰篤い国王の蔵書により

⑦ HONORA PATREM TVVM ET MATREM TVAM,
VT SIS LONGAEVUS SVPER TERRAM.

honora: honoro -are 動詞「敬う」の命令形「汝よ敬え」

patrem tuum et matrem tuam: pater/patris/patri/patrem/patre「父」

mater「母」の対格　tuus　-a　-um「君の」父は男性、母は女性、それに対応して tuum, tuam と変化している。

ut 接続詞　接続法を伴って結果を示す

sis: sum の接続法現在二人称・単数

longaevus「長生きの」super 前置詞 terram: terra「土地」

「ホノーラー・パトレム・トゥウム・エト・マートレム・トゥアム・ウト・シース・ロンガエウス・スペル・テッラム」

参考資料に訳がありますので、それをもとに自分で確認して下さい。

⑧ PARISIIS「パリにて」Parisii（複数）の地格（奪格形と同じ）

⑨ Sumptibus 「費用により」sumptus -tus, *m*　支出、出費

⑩ SEBASTIANI CRAMOISY Architypographi Regis
& Reginae Regentis, ET GABRIELIS CRAMOISY.

Sebastianus=Sebastian　architypographus 印刷業者　rex et regina「国王と王女」　regens -entis　「支配する人」director

王室印刷業者 Sebastian　Cramoisy 及び Gabriel　Cramoisy の〔支出により〕

⑪ via Iacobaea, sub Ciconiis.

via -ae, f 通り、道路、街道　Iacobaea (Jacobea): 形容詞「Jacobus の」via が女性名詞であり、それに合わせて女性形となっている。人名も形容詞的に変形されて用いられます。

ヤコブス通り＝ rue St. Jacques　「サンジャック通り」

sub 前置詞・奪格支配「～の下で」　Ciconia -ae, f. 「コウノトリ」

コウノトリの看板の下

「コウノトリ」についてはプリンターズマークと参考資料を見て下さい。

「サンジャック通り」については 24 頁掲載の『タイトルページを読む楽しみ』66 頁に説明があります（1625 年出版の書物に関しての解説）。大変参考になりますので、以下に引用します。

「ニコラ・ブオンが店を構えていた『サンジャック通り』は、パリのセーヌ左岸カルチェ・ラタンにあります。ソルボンヌやコレージュ・ド・フランスはこの通りに面していて、昔から学僧、学者、学生などの本に対する顧客が多かったため、書籍商と印刷業者が沢山軒を列ねていたところです。ノートル・ダム聖堂近くのプチ・ポンから南に延びてパリ市外に至るサンジャック門まで通じており、中性には遠くスペインの聖地サンチャゴ・デ・コンポステーラを目指して巡礼者達がパリを発つ時に通った道なので、聖ヤコブ（フランス語ではサンジャック、スペイン語ではサンチャゴ）に因んで通りの名前が付きました。パリでは大部分の書店とほぼ全ての印刷工房が、このサンジャック通りとサント・ジュヴィエーヴの丘にかけての一帯、およびシテ島西端の高等法院内に集中していました。」